

せ ん

ぼ 通信 No.73

ば・あ・や・の・う・け・う・り

〔無尽〕

山梨出身の男性が、実家へ里帰りすれば
友達との飲み会が続く…と。 そんなに…？
「山梨には無尽(むじん)があって、それで…」

あっ無尽ね…それでは飲み会も多いわね。
「無尽知っているんですか？」 会津若松に
住んでいた時に、教えてもらったので。

無尽とは、友達…同業者…同郷などの縁で
仲間を作り、お金を出し合って貯めて、
困った仲間に貸してやり、借りた人は後で返
す。 銀行の基になったくみで、情報交換
のため会食も定期的に。 武士の時代から
あって、現代は、同級生とかで仲間を作り、
「無尽」という飲み会が続けられてきた。

昔の会津若松市内は、大きな料亭や飲食店が
狭い所にいっぱいあって、こんな所に観光客
は来ないし…と、不思議に思っていました。
無尽が、会津と甲府にあったということは、
あちこちの城下町にあったのでは…。

ずうっと昔から、人々はあることで助け合っ
てきた…農作業は「結(ゆい)」という形で…。

これからも…新しい形の助け合いで、
共に生きていきますよね…きっと。

「ミヤコ先生は、二瀬中学校で
3年間担任だったのです。 高校
に進学したかったけど山の中なの
で、あきらめて洋服の仕立ての修
行に。 普通5年だけど、私は完全
に技術を身につけたくて10年修行
して独立。 店が市役所の近くだ
ったので、たくさんの注文をいた
だきました。『この服でなきゃ
だめだ』と、今でもたのまれて…」
と、いわき市の安藤さん(83歳)。
2018年に、黄綬褒章を受賞され、
趣味の油絵では、公民館の講師を
され、個展も開催されたようです。
頭が下がるお話で、技術だけではなく、
お人柄の良さで、いわきの
皆さんに愛されてきたのですね。

「供養になると、いわれている
ので…」と、母の仏前に、初夏の
「国宝白水阿弥陀堂」の油絵を
いただきました。

くだものがおいしい季節になって…
店のミカンを見て、お客様が、
「このミカンは地元の？」 いえいえ熊本産です。
お客様はどちらから？ 「京都だよ…」
後日、別のお客様が、柿を見て、「これは地元産？」
いえいえこの柿は、和歌山産です。
お客様はどちらから？ 「茨城だよ…」 うふふ…
山の中の店なので、地物かな？と思うんですね。
おだやかな秋晴れが続いていて、
稲刈りも順調そうで、コンバインのピピッの音が、
稲穂の上をおどっているよう…。
昨年の台風のような大荒れになりませんように。

古希夫婦黙々すすむ秋の膳



ありがとうございました

〒963-1245 郡山市田村町柝山神字千穂128 TEL: 024-975-2415 FAX: 024-975-2466

2020・10・1

遠藤商店

編集: ミサ子 mail:kaikuu-0305@docomo.ne.jp